

2010年3月期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2010年5月11日

代表取締役会長 山口 純史
代表取締役社長 赤尾 泰



I. 2010年3月期 決算概要

旧NECエレクトロニクス

旧ルネサス テクノロジ

ルネサス エレクトロニクス(旧2社単純合算)

II. 新会社の経営目標と統合初年度の取り組み

I. 2010年3月期 決算概要 ～旧NECエレクトロニクス

【サマリ】

2010年3月期 決算の概要

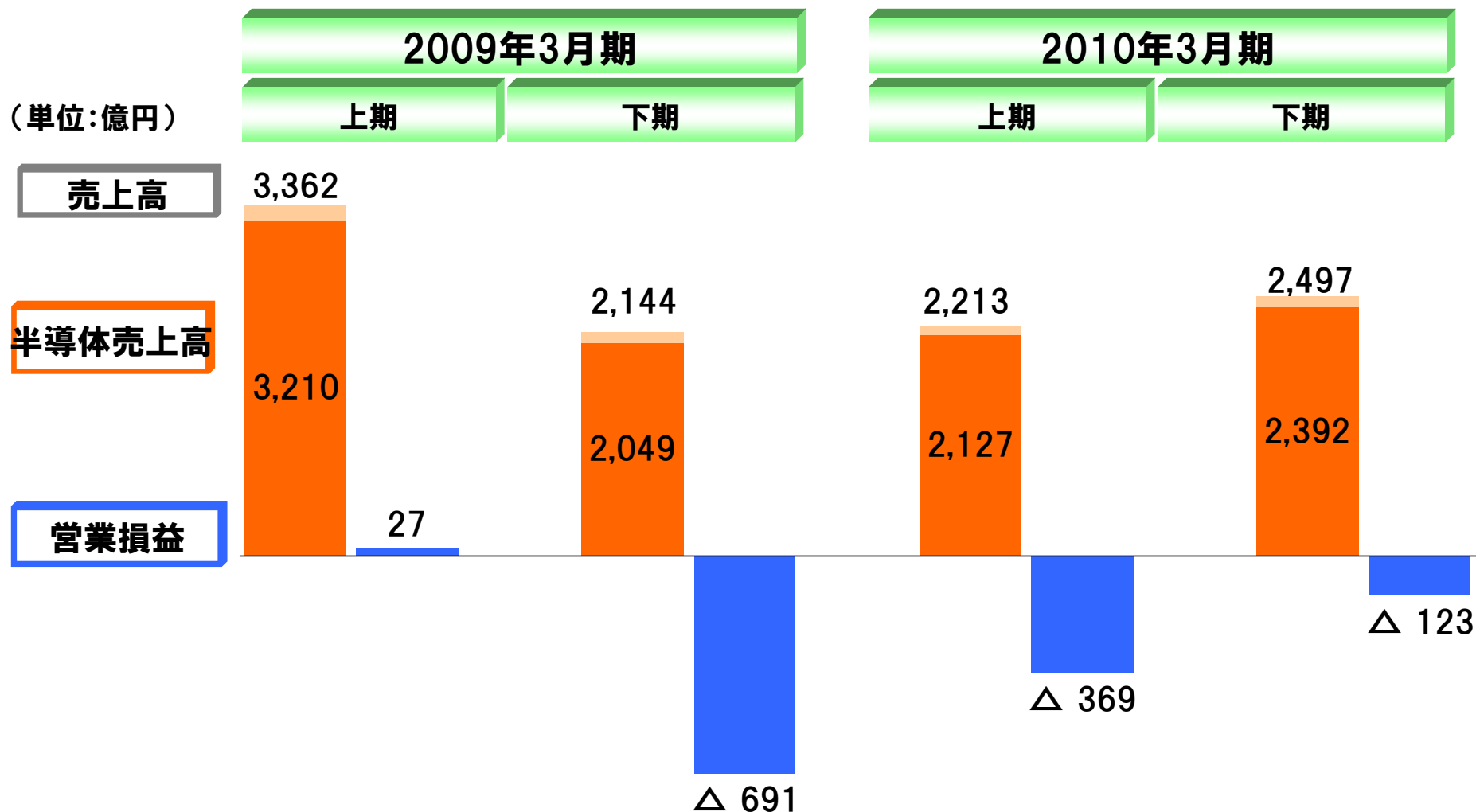
- 第4四半期は売上高、営業損益ともほぼ想定どおり増収増益
- 通期の売上高は大幅減収となったものの、固定費削減により損益は改善

2010年3月期						
(単位：億円)	第4四半期	前四半期比	前年同期比	通期	前年度比	予想比
売上高	1,318	+139	+459	4,710	△796	+90
半導体売上高	1,261	+129	+450	4,519	△740	+49
営業損益	△30	+63	+501	△492	+172	△17
経常損益	△53	+60	+525	△544	+218	△29
当期損益	△24	+119	+617	△564	+286	+26
1US\$=	90円	0円高	1円高	93円	8円高	3円安
1ユーロ=	128円	5円高	8円安	132円	14円高	2円安

(注) 本資料の旧NECエレクトロニクスの業績は日本会計基準で作成しております。

半期別業績推移

■ 2009年3月期下期をボトムに半導体売上高、営業損益とも継続改善



I. 2010年3月期 決算概要 ～旧NECエレクトロニクス

【第4四半期】

第4四半期(1-3月期) 半導体売上高(前四半期比)

- 第3四半期から11%増収となった。事業別では全分野で増収を達成
- 特にSoCで、EMMAを中心とするデジタルAV向けシステムLSIで大きく増収

(単位:億円)

	2010年3月期	
	第4四半期	前四半期比(%)
半導体売上高	1,261	+11%
SoC	431	+22%
MCU	437	+6%
個別半導体	393	+7%

事業別売上概況

SoC

【↑】:EMMAを中心とするデジタルAV向けシステムLSI

MCU

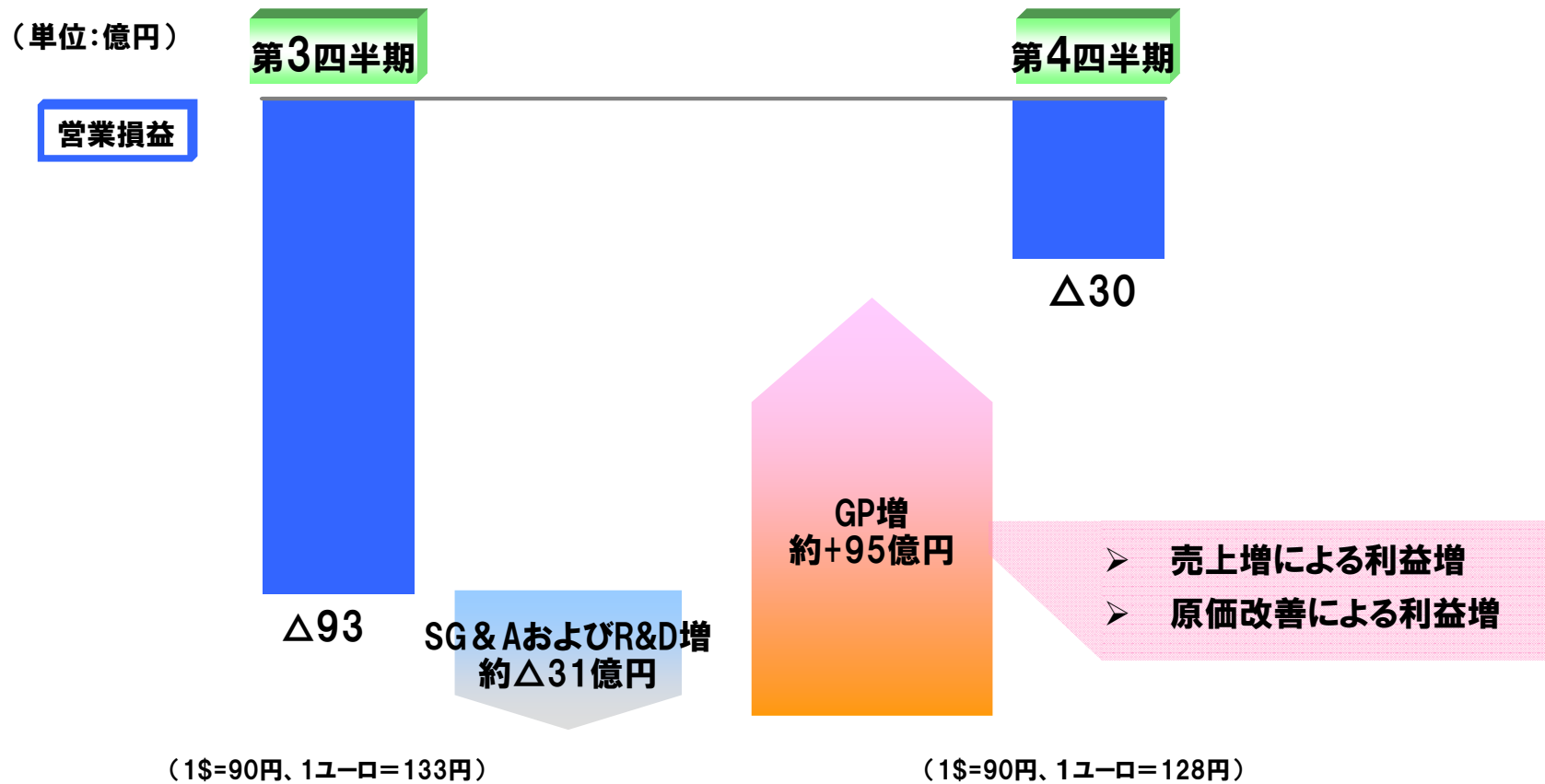
【↑】:自動車向けマイコン、汎用マイコン

個別半導体

【↑】:ディスクリート半導体、表示ドライバIC
【→】:化合物デバイス

第4四半期 営業損益の主な増減要因

- 第4四半期の営業損益は、SG&AおよびR&Dの増加があったものの、売上増による利益増などにより、前四半期比で赤字幅改善



注 GP:粗利益、R&D:研究開発費、SG&A:研究開発費除く販売費および一般管理費

I. 2010年3月期 決算概要 ～旧NECエレクトロニクス

【通期】

2010年3月期 事業別売上高推移

- MCUは、自動車向けマイコンの需要が急速に回復したため増収
- SoC、個別半導体は、市況の影響を大きく受け減収

(単位:億円)	2010年3月期	
	通期	前年度比(%)
半導体売上高	4,519	△14%
SoC	1,614	△28%
MCU	1,491	+4%
個別半導体	1,414	△11%

事業別売上概況

SoC

【↓】:民生機器向けLSIを中心に大幅減収

MCU

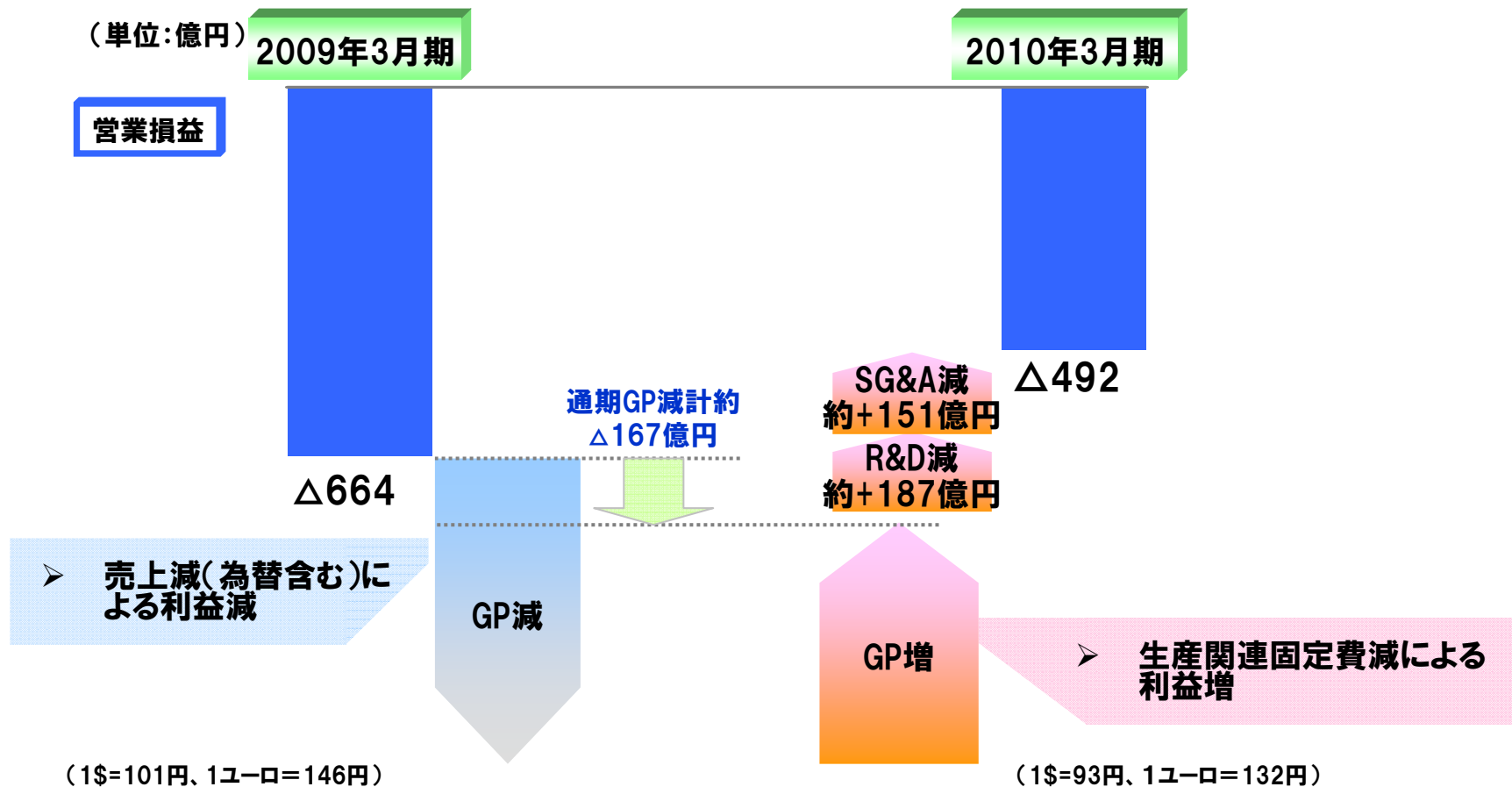
【↑】:自動車向けマイコン、汎用マイコン

個別半導体

【↓】:全般的に減収

2010年3月期 営業損益の主な増減要因

- 2010年3月期は前期比大幅減収となったものの、固定費削減を行ったことにより、営業損益は改善



注 GP: 粗利益、R&D: 研究開発費、SG&A: 研究開発費除く販売費および一般管理費

バランスシート

(単位:億円)	09/3	09/12	10/3
総資産	4,882	4,699	4,599
うち 現金及び現金同等物	1,013	956	912
うち たな卸資産	632	571	570
負債合計	2,935	3,319	3,236
うち 有利子負債	1,113	1,418	1,409
株主資本	2,024	1,483	1,459
純資産合計	1,947	1,380	1,363
D/Eレシオ(グロス)	0.59倍	1.06倍	1.07倍
自己資本比率	39%	29%	29%

注 ①現金及び現金同等物:「現金及び預金」、「有価証券」 ②たな卸資産:「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」
 ③有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「新株予約権付社債」、「長期借入金」
 ④自己資本:「株主資本」、「評価・換算差額等」 ⑤D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

キャッシュ・フロー

- 2010年3月期下期のフリー・キャッシュ・フローは黒字を確保

(単位:億円)	2009年3月期		2010年3月期	
	下期	年度計	下期	年度計
営業活動による キャッシュ・フロー	△265	△82	201	63
投資活動による キャッシュ・フロー	△257	△491	△175	△422
フリー・ キャッシュ・フロー	△523	△572	26	△360

I. 2010年3月期 決算概要 ～旧ルネサス テクノロジ

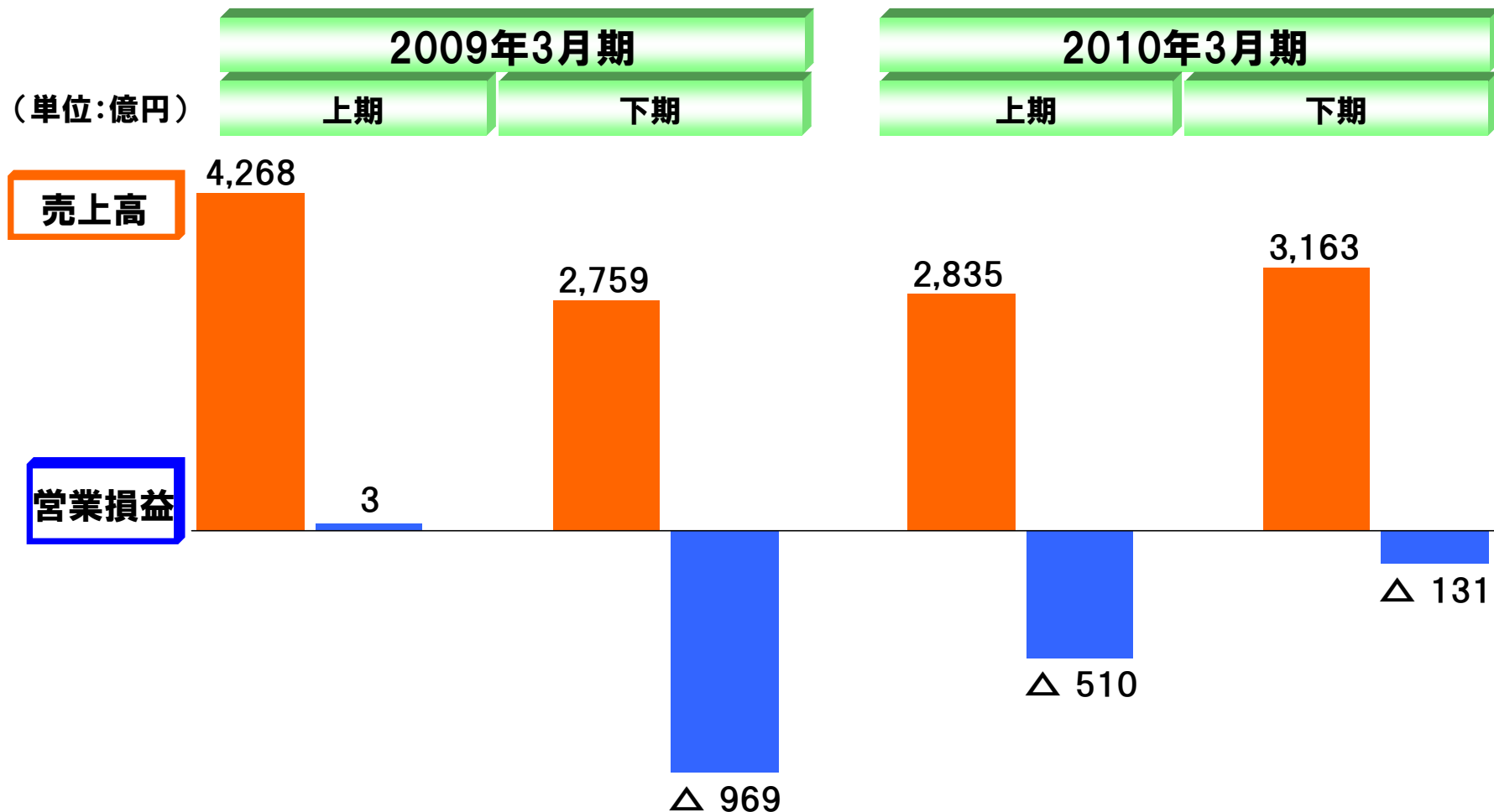
2010年3月期 決算の概要

- 2009年3月期後半以降の需要激減等の影響により前年度比では大幅減収
- 2010年3月期後半からの工場稼働率の回復、固定費削減施策等が奏功し、赤字幅は縮小

(単位:億円)	2009年3月期	2010年3月期	前年同期比
売上高	7,027	5,998	△1,029
半導体売上高	5,640	4,974	△666
営業損益	△966	△640	+326
経常損益	△1,028	△709	+319
当期損益	△2,033	△813	+1,219
1US\$=	101円	93円	8円高
1ユーロ=	143円	131円	12円高

半期別業績推移

- 2009年3月期後半をボトムとして売上は回復基調を維持
- 種々の構造改革施策や需要回復による工場稼働率の向上により営業損益も改善傾向



バランスシート

(単位:億円)	09/3	10/3
総資産	6,829	6,109
うち 現金及び現金同等物	1,066	1,109
うち たな卸資産	1,053	801
負債合計	5,060	4,441
うち 有利子負債	2,838	2,313
株主資本	1,801	1,704
純資産合計	1,769	1,668
D/Eレシオ(グロス)	1.60倍	1.40倍
自己資本比率	26%	27%

- 注
- ①現金及び現金同等物:「現金及び現金同等物等」、「定期預金(3ヶ月超)」、「有価証券」
 - ②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「長期借入金」
 - ③自己資本:「株主資本」、「評価・換算差額等」
 - ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

キャッシュ・フロー

■ 2010年3月期下期のフリー・キャッシュ・フローは黒字を確保

(単位：億円)	2009年3月期		2010年3月期	
	下期	年度計	下期	年度計
営業活動による キャッシュ・フロー	△178	△63	271	183
投資活動による キャッシュ・フロー	△427	△892	△192	△347
フリー・ キャッシュ・フロー	△606	△955	79	△164

**I. 2010年3月期 決算概要
～ルネサス エレクトロニクス（旧2社単純合算）**

2010年3月期 決算の概要

旧NECエレクトロニクスと旧ルネサス テクノロジの実績単純合算

(単位:億円)	2009年3月期	2010年3月期	前年同期比
売上高	12,162*	10,624*	△1,538
半導体売上高	10,746*	9,409*	△1,337
営業損益	△1,630	△1,133	+497
経常損益	△1,790	△1,253	+537
当期損益	△2,884	△1,378	+1,506

(注)この合算値に使用している旧ルネサステクノロジの「売上高」および「半導体売上高」については、合併における会計処理の変更の影響により、本プレゼンテーション資料の15頁の該当数値と異なっております。

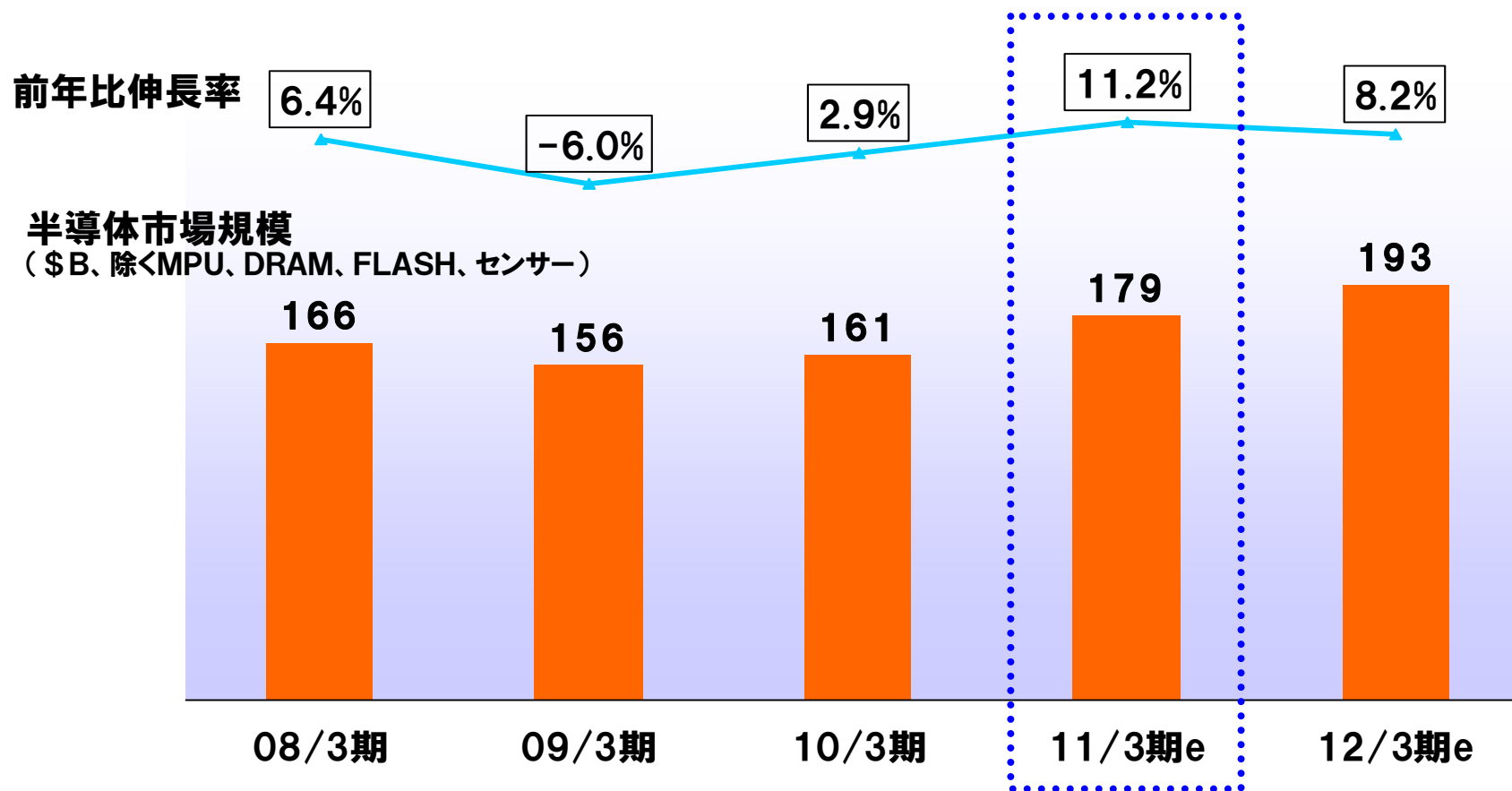
II. 新会社の経営目標と統合初年度の取り組み

経営目標

- **統合初年度より営業黒字化を目指す**
- **必要な構造改革を統合の初期段階に集中して取り組み、2年目には当期黒字化を目指す**
- **中期的な営業利益率(売上高比)は2桁を目指す**

経営環境 ー 半導体市場見通し

- 2011年3月期は堅調な機器生産を反映、部品需給の逼迫傾向も続き、成長が加速
- 成長傾向は2012年3月期も続き、半導体業界にとっての追い風は継続



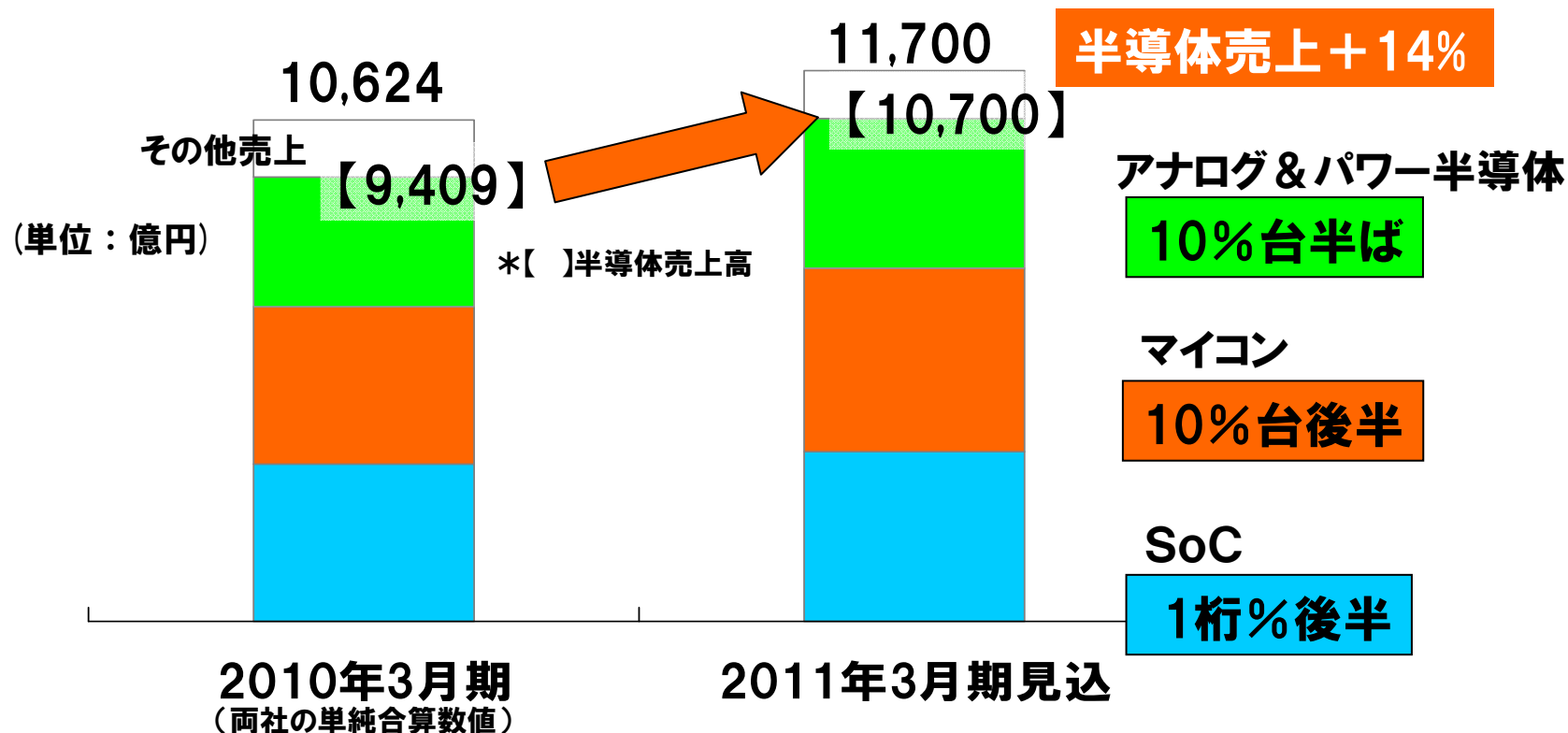
出展：WSTS、当社調べ

市場成長以上の半導体売上高へ

- 事業機会の拡大(圧倒的な世界No.1シェアのマイコンをコアコンピタンスに、アナログ&パワー半導体との事業シナジーを追求)
- 海外市場向け売上高の拡大

市場成長以上の半導体売上成長を目指す

YoY%



(注)2010年3月期両社合算値に使用している旧ルネサス テクノロジの「売上高」および「半導体売上高」については、合併における会計処理の変更の影響により、本プレゼンテーション資料の15頁の該当数値と異なっております。

今年度の具体的な重点取り組み

～短期取り組みの先に**中長期体質強化**を見据えて～

1. **事業機会の拡大**
→ **製品競争力の強化**
2. **海外事業拡大への布石**
→ **海外半導体売上比率60%超へ**
3. **即効性あるコスト低減**
→ **コスト競争力の強化**
4. **TOPダウンによる構造改革推進**

「100日プロジェクト」で具体的施策を検討し、
シナジーの早期具現化と体質強化を目指す

「100日プロジェクト」の概要

- 全社を挙げて統合シナジーを追求し、継続的な利益が確保できる経営・事業基盤の強化を図る



統合シナジー
追求に向けて
各プロジェクト
で具体化

■事業ポートフォリオの最適化

- コア・コンピタンスであるW/W No.1のマイコンとのシナジーを最大限に活用し、アナログ&パワー半導体を強化
- SoC事業は戦略分野・製品群を再定義し選択と集中
- 中国を中心に高成長地域での事業強化を推進する専門組織を設置

■開発環境・設計プラットフォーム・プロセス統合

- 重複部分(プロセス、IP、設計手法・開発環境等)の統合化
- 統合化を受けて全社共通のプラットフォームを確立
- ベストプラクティスの共有による開発効率の向上

■生産構造の再構築

- 製品相互乗り入れによるクロス生産及び戦略的外ファブ活用の推進を通じたファブネットワークの再構築
- ベストプラクティスの共有による製造コストの削減(生産性向上、歩留まり改善、材料費削減、テストタイム減等)

捻出した経営
リソースを
注力・成長
分野に再配置

社長直轄の全社横断の各プロジェクトチームを編成。
具体的なアクションへの落とし込みを行い、即実行する。

2011年3月期 業績見通しについて

- 当社は、現在、統合後100日間を目処に当社の新しい方針を具体化するという「100日プロジェクト」を実行中であり、また、合併にあたり、被合併会社である株式会社ルネサス テクノロジーの資産および負債の時価評価が現時点（2010年5月11日）では未確定です。
- これらの理由により、現時点において業績予想の策定が困難な状況であることから、2011年3月期通期の連結売上高を除き、2011年3月期の連結業績予想値は開示しておりません。
- なお、業績予想値につきましては、2011年3月期第1四半期決算発表時に公表する予定です。



(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略および業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.